

ID No.	1025
研究課題名	p53 変異難治性造血器悪性腫瘍耐性メカニズムの解明及び治療戦略構築
研究代表者	上久保 靖彦(京都大学大学院医学研究科・特定教授)
研究組織	
受入教員	今井 陽一(東京大学医科学研究所・准教授)
研究分担者	足立 壯一(京都大学・教授) 西中(新井)瑤子(京都大学・助教) 松尾 英将(京都大学・助教) 能浦 三奈(京都大学・大学院生) 田中 直(京都大学・博士研究員) 窪田 博仁(京都大学・大学院生) 松井 恭澄(京都大学・博士研究員) 服部(山本)悦子(京都大学・大学院生) 中谷 香菜(京都大学・大学院生) 松尾 明彦(京都大学・大学院生) 小山 朝美(京都大学・大学院生) 佐々木 亜沙美(京都大学・大学院生) 武田 佳那子(京都大学・大学院生) 武田 瑞穂(京都大学・大学院生) 増田 達哉(京都大学・大学院生) 秦 明日香(京都大学・大学院生) 櫻本 直也(京都大学・大学院生) 東谷 萌絵(京都大学・大学院生) 小早川 敦(京都大学・大学院生) 小尾 夏野(京都大学・大学院生) 柳田 陽平(京都大学・大学院生) 堀内 彩香(京都大学・大学院生) 原田 優太郎(京都大学・大学院生)
研究報告書	<p>p53変異難治性AMLを含め、AMLがRUNXファミリー高発現カテゴリーであることを解明した。RUNXファミリーを包括的に抑制することで、AML全般が抑制されることを証明した。</p> <p>GVHDをRUNXを包括的に抑制することで、制御することが可能であることを解明した。</p> <p>PhALL(TKI耐性)はRUNXファミリーを包括的に抑制することで、BCR-ABL蛋白を消失し、抑制できることを証明した。</p>